

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

Jc612 U.S. PTO
09/286791
04/06/99

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出 願 年 月 日

ate of Application:

1998年 4月 9日

願 番 号

Application Number:

平成10年特許願第114313号

願 人

Applicant(s):

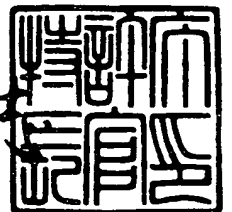
カシオ計算機株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1999年 2月 5日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

伴佐山 建



出証番号 出証特平11-3003775

【書類名】 特許願

【整理番号】 98-0108

【提出日】 平成10年 4月 9日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/225

【発明の名称】 撮像装置及び撮像方法

【請求項の数】 5

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都東大和市桜が丘2丁目229番地
 カシオ計算機株式会社 東京事業所内

 【氏名】 太田 成一

【特許出願人】

 【識別番号】 000001443

 【氏名又は名称】 カシオ計算機株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100072383

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 永田 武三郎

 【電話番号】 03-3455-8746

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9713934

【書類名】 明細書

【発明の名称】 撮像装置及び撮像方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ストロボ発光部を備えた撮像装置であって、
ストロボ発光部に 1 回目のストロボ発光を行なわせるプリ発光制御手段と、
前記 1 回目のストロボ発光による被写体光量を得て、該被写体光量値が適正な
値か否かを判定する光量判定手段と、

前記被写体光量値が適正でない場合には、前記被写体光量に基づいて撮像に適
正なストロボ発光量を決定して該光量によりストロボ発光部に 2 回目のストロボ
発光を行なわせ、前記被写体光量値が適正である場合には、2 回目のストロボ発
光を行なわないようにする本発光制御手段と、

前記 1 回目のストロボ発光による被写体光量値が適正な場合にはそれにより得
た被写体画像を記録／保存し、2 回目のストロボ発光を行なった場合にはそれ
により得た被写体画像を記録／保存する画像記録制御手段と、を備えたことを特徴
とする撮像装置。

【請求項 2】 前記プリ発光制御手段は、被写体が存在する可能性が最も高
い距離に対しての適正なストロボ発光量でストロボ発光を行なわせることを特徴
とする請求項 1 記載の撮像装置。

【請求項 3】 前記プリ発光制御手段は、オートフォーカス動作から取得し
た注目被写体との距離を基にして決定したストロボ発光量でストロボ発光を行な
わせることを特徴とする請求項 1 記載の撮像装置。

【請求項 4】 前記プリ発光制御手段は、ユーザーの手動操作により設定さ
れたストロボ発光量でストロボ発光を行なわせることを特徴とする請求項 1 記載
の撮像装置。

【請求項 5】 1 回目のストロボ発光を行なって得た被写体光量が適正か否
かを判定し、適正でない場合にのみ該被写体光量に基づいて適正なストロボ発光
量を決定し、該光量により 2 回目のストロボ発光を行なわせることを特徴とする
撮像方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はストロボを備えた撮像装置に関し、特に、撮像時にプリ発光をしてストロボの主発光量を制御し、撮像を行なう撮像装置及び撮像方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、光量の足りない場所での撮像は、露光時間を長くして撮像するか、或いはストロボを発光させることで光量を補って撮像を行なっている。後者の場合、ストロボを用いると露光時間を短くできるので、暗所でもカメラを固定することなく撮像できる。

また、ストロボ発光による撮影技術の一つに、特開平5-44654号公報に開示のストロボ制御技術のように、ストロボ撮影に際してプリ発光を行ないその際に蓄積された画像データを用いて主発光量を制御して本発光を行なうものがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記特開平5-44654号公報に開示の技術ではプリ発光の後に必ず本発光を行なうように構成されているので、例えば、プリ発光で得た画像の光量が適正であった場合でも、本来ならプリ発光で得られた画像を撮影画像として用いることができるのに、本発光をして撮像するので本発光のためにコンデンサへの充電を要することとなり、その分消費電力を無駄にしバッテリーの寿命を縮める結果になるという問題点があった。

【0004】

本発明は上記問題点に鑑みてなされたものであり、プリ発光で得た画像の光量が適正である場合にその画像を撮影画像とすることで発光回数を減らし、その分バッテリー寿命の延長を図り得る撮像装置及び撮像方法の提供を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、第1の発明の撮像装置は、ストロボ発光部を備

えた撮像装置であって、ストロボ発光部に1回目のストロボ発光を行なわせるプリ発光制御手段と、1回目のストロボ発光による被写体光量を得て、該被写体光量値が適正な値か否かを判定する光量判定手段と、被写体光量値が適正でない場合には、被写体光量に基づいて撮像に適正なストロボ発光量を決定して該光量によりストロボ発光部に2回目のストロボ発光を行なわせ、前記被写体光量値が適正である場合には、2回目のストロボ発光を行なわないようにする本発光制御手段と、1回目のストロボ発光による被写体光量値が撮像に適正な場合にはそれにより得た被写体画像を記録／保存し、2回目のストロボ発光を行なった場合にはそれにより得た被写体画像を記録／保存する画像記録制御手段と、を備えたことを特徴とする。

【0006】

また、第2の発明は前記第1の発明の撮像装置において、プリ発光制御手段は、被写体が存在する可能性が最も高い距離に対しての適正なストロボ発光量でストロボ発光を行なわせることを特徴とする。

【0007】

また、第3の発明は前記第1の発明の撮像装置において、プリ発光制御手段は、オートフォーカス動作から取得した注目被写体との距離を基にして決定したストロボ発光量でストロボ発光を行なわせることを特徴とする。

【0008】

更に第4の発明は、前記第1の発明の撮像装置において、前記プリ発光制御手段が、ユーザーの手動操作により設定されたストロボ発光量でストロボ発光を行なわせることを特徴とする。

【0009】

また、第5の発明の撮像方法は、1回目のストロボ発光を行なって得た被写体光量が適正か否かを判定し、適正でない場合にのみ該被写体光量に基づいて適正なストロボ発光量を決定し、該光量により2回目のストロボ発光を行なわせることを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】

本発明の撮像装置は撮像時に暗所で撮像を可能とするストロボを備えており、使用者がシャッター操作を行なうと、プリ発光を行なって被写体光量の適否を判定し、光量が適正な範囲内にある場合には取込まれた被写体画像を撮影画像として記録／保存する。

一方、光量が適正でない場合には取込まれた被写体光量を元に撮像に必要な光量を計算してストロボに本発光を行なわせ、取込まれた画像を撮影画像として記録する。

【0011】

<回路構成例>

図1は、本発明を適用した撮像装置の一実施例としてのデジタルカメラの回路構成例を示すブロック図である。

図1で、デジタルカメラ100は、光学系10、ストロボ発光部11、信号変換部12、信号処理部13、DRAM14、制御部20、操作部30、表示部40、記録部50および電源90を有している。

【0012】

光学系10は、撮像レンズ101と光量検出部を有する自動絞り機構102から構成され、撮像レンズ101を介して集光された被写体像の光束を後段のCCD121上に結像させる。

【0013】

ストロボ発光部11は、制御部20からの発光量制御信号を受け取ると極めて短い時間内に所定の光量を放出（発光）し、周辺の光量を補う。放出する光量（すなわち、ストロボ発光用コンデンサへの充電量）は発光量制御信号によって制御される。

【0014】

信号変換部12は、CCD121、CCD駆動用タイミング信号生成回路（TG）122、CCD駆動用垂直ドライバ123、自動利得制御回路（AGC）124およびA/D変換器125を含み、前段の光学系10を介してCCD121に結像した画像を電気信号に変換し、デジタルデータ（以下、画像データ）に変換して一定の周期で1フレーム分出力する。AGC124は制御部20の制御に

より CCD 121 からの信号をゲイン調整して A/D 変換器 125 に与える。

【0015】

信号処理部 13 は、カラープロセス回路および DMA コントローラを有し、信号変換部 12 からの出力をカラープロセス処理して、デジタルの輝度、色差マルチプレクス信号 (YUV データ) とし、YUV データを DRAM 14 の指定領域に DMA (ダイレクトメモリアクセス) 転送し、展開する。

信号処理部 13 は、また、記録保存の際に DRAM 14 に書込まれている YUV データを読み出して JPEG 圧縮処理を施す。また、再生モード下で記録部 50 を介して取り込まれた記録媒体 (本実施例ではメモリーカード) 51 に保存記録されていた画像データに伸張処理を施して YUV データを再生する。

【0016】

制御部 20 は CPU、RAM、ROM を有している。なお、RAM を設けることなく RAM の代りとして DRAM 14 に割当てられた領域を用いるようにしてもよい。

制御部 20 は、上述の各回路および図示しない電源切換えスイッチ等にバスラインを介して接続し、ROM に格納されている制御プログラムによりデジタルカメラ 100 全体の制御を行なうと共に、操作部 30 からの状態信号に対応してデジタルカメラの各機能の実行制御、例えば、ROM 内に格納された各モード処理手段の実行による各モード処理の実行制御を行なう。

【0017】

操作部 30 は、処理モード切換えスイッチ、複数の機能選択用ボタン、メインスイッチ、出力用ボタンおよび記録/再生モード切換えスイッチ等のスイッチやボタンの他、ストロボ設定 (ストロボ撮像モード選択) ボタン 36 およびシャッターボタン 37 を構成部分とし、これらのスイッチ或いはボタンが操作されると状態信号が制御部 20 に送出される。

【0018】

表示部 40 は液晶ディスプレイ装置等の表示装置から構成されており、撮像時に画面に被写体画像が表示されるので、画面をファインダとして用いることができる。また、再生モード時には再生画像を表示できる。

【0019】

記録部 50 は記録媒体を収容し制御部 20 の制御により記録媒体 51 上に信号処理部 13 からの画像データを記録する。なお、実施例では記録部 50 は記録媒体としてのメモリーカード 51 を着脱可能に構成し、データの書込／読み出しを行なうように構成したが、フラッシュメモリ等の内部に固定された記録媒体にデータの書込／読み出しを行なうように構成してもよい。

【0020】

＜外観例＞

図 2 は、デジタルカメラ 100 の一実施例の外観（前面）図であり、デジタルカメラ 100 の前面にはストロボ発光部 11、撮像レンズ 101 が、上面にはストロボ充電状態表示ランプ 35、ストロボ撮像モード選択ボタン 36、およびシャッターボタン 37 が示されている。

【0021】

＜処理モード＞

デジタルカメラ 100 の処理モードは記録、再生モードからなる通常モードおよび近接撮影等の特殊撮影モードに大別され、処理モード切換えスイッチの切換えにより通常モードと特殊撮影モードとの切換えがなされ、記録／再生モード切換えスイッチの操作により記録モードと再生モードの切換えが行なわれる。なお、特殊撮影モード下でも通常モードと同様に記録モードおよび再生モードがある（以下の説明は、通常モードの場合について述べるが特殊撮影モードにおいても同様である）。

また、各スイッチの切換えによる各モードへの遷移は使用者による各モード設定（またはモード選択）ボタン或いはスイッチの操作によって行なわれる。制御部 20 はモード設定ボタン等の操作によって、操作部 30 から制御部 20 に送られる状態信号を調べて対応のモード処理用回路或いはプログラムに遷移する。また、モード判定はモード判定手段（実施例ではプログラムで構成）によって行なわれる。

【0022】

〔RECモード〕

RECモードはCCD121から周期的に取り込んでくる画像データをファインダ（液晶ディスプレイ）40上にスルー画像として表示する通常撮像モードと、ストロボ発光により撮像を行なうストロボ撮像モードと、ユーザーが、スルー画像を視覚的に確認しながら取り込みたいタイミングでシャッターボタン37を押し下げることにより、その時点で表示されている画像データ（YUVデータ）をDRAM14からメモリーカード51に保存する記録保存モードを含んでいる。

【0023】

〔ストロボ撮像モード〕

ストロボ撮像モードが選択されると、ストロボ設定がなされ、ストロボ充電状態表示ランプが赤色表示されると共に、ストロボ発光部11に電源90から電荷が印加され、ストロボを発光可能状態まで電荷が蓄積される。ストロボが発光可能状態になるとストロボ充電状態表示ランプ35が緑色に点灯される。

ストロボ撮像モード下では、光学系10からの光学像は信号変換部12のCCDにより電気信号に変換されゲイン調整等が施された後にA/D変換され、信号処理部13で色信号成分や輝度成分等が取り出され、制御部20の制御の下で映像信号処理される。

制御部20はシャッターボタン37が押されるとストロボ制御手段110を起動してストロボ発光量を決定し、発光量制御パルスをストロボ発光部11に送出する。制御部20は、また、ストロボ発光（プリ発光）後、増量された被写体光量を下にその適否を判定して、記録保存モードに遷移するか、再発光（本発光）制御を行なうかを決定する。

具体的には、使用者が所望のアングルでシャッター操作を行なうと、まず、プリ発光を行なって被写体画像（図4）を取込んでその光量の適否を判定する。そして、プリ発光により増量された被写体光量が適正な範囲内（図5（a））にある場合には、取込まれた被写体画像を撮影画像として記録するため記録保存モードに遷移する。一方、光量が適正でない場合（図5（b）、（c））には取込まれた被写体光量を元に撮像に必要な光量を計算してストロボに本発光を行なわせて被写体画像を取込む。

ストロボ発光部 11 は発光量制御パルスを受取ってそれによって決定された発光量によって発光を行なう。

【0024】

〔記録保存モード〕

通常撮影モードでシャッターボタン 37 が押されると記録保存モードに遷移し、ファインダ 40 にその時点で表示されている画像が静止画となり、画像バッファの内容は J P E G 圧縮処理されてメモリーカード 51 に記録される。

一方、ストロボ撮影モードでシャッターボタン 37 が押された場合には、上述したように、まず、プリ発光による被写体光量の適否を判定し、被写体光量が適正な範囲内にある場合には取込まれた被写体画像を撮影画像としてメモリーカード 51 に記録する。一方、被写体光量が適正でない場合にはストロボに本発光によって取込まれた被写体画像をメモリーカード 51 に記録する。

【0025】

<実施例 1-1>

〔ストロボ撮影手段〕

ストロボ撮影手段 110 は、ユーザーがストロボ設定ボタン 36 を押した場合に起動され、ストロボ撮影処理および記録保存処理を実行する。

図 3 はストロボ撮影手段 110 の構成例を示すブロック図であり、ストロボ撮影手段 110 は、プリ発光指示手段 112、光量判定手段 113、適正光量決定手段 114、本発光指示手段 115 および記録指示手段 116 を含んでいる。これら各手段はハードウェア或いはソフトウェア（プログラム）で構成されている（本実施例ではプログラムで構成されている）。

【0026】

プリ発光指示手段 112 はストロボ撮影モードに遷移すると、シャッターボタン 37 の押し下げを待ち、シャッターボタン 37 が押されると所定のプリ発光量で発光させるための発光量制御信号をストロボ発光部 11 に送出する。プリ発光量は本実施例では本発光量より少ない光量としているが多くてもよい（実施例 1-2 参照）。

【0027】

光量判定手段 113 はプリ発光時に取り込まれ D R A M 14 に格納されている被写体画像の光量検出値が適正範囲（適正光量下限 ϕ_{min} ～ 上限 ϕ_{max} の範囲内（図 5））にあるか否かを判別し、画像の全ての領域の光量値が下限 ϕ_{min} 未満の場合（図 5（c））または画像の所定割合以上の領域の光量が適正範囲にない場合（図 5（b））には適正光量決定手段 114 に遷移する。また、画像の所定割合以上の領域の光量が適正範囲（下限 ϕ_{min} ～ 上限 ϕ_{max} （図 5（a））にある場合には画像記録指示手段 116 に遷移する。

【0028】

適正光量決定手段 114 は、光量判定手段 113 によりプリ発光時の被写体光量が下限 ϕ_{min} 未満の場合（図 5（c））または画像の所定割合以上の領域の光量が適正範囲にない場合に、被写体画像の所定割合以上の領域の光量が適正光量の範囲になるように光量（ストロボ発光量）値を決定して、本発光指示手段 115 に遷移する。

決定方法の例として、いま、画像 1 枚分の幅を W とするとき図 5（a）のように幅 $w_1 \sim w_2$ の範囲内で光量 y が適正值内にある場合の総光量 Y は、

$$Y = \int_{w_1}^{w_2} y$$

であるから、 $\phi_{min} < Y < \phi_{max}$ となるように w_1 , w_2 を決定すればよいので、総光量 Y の比率を定めておけば、中心被写体（図 4 の例では人物 1）を中心とする正規分布曲線から w_1 , w_2 を得ることができる。

従って、図 5（b）や（c）のように光量が適正值に満たない場合には、得られた光量のうちの最大値を Y_1 とする場合に、 $\phi_{min} < Y < \phi_{max}$ となるように w_1 , w_2 を決定し、そのときの最大値 Y_1 の増分、すなわち $Y - Y_1 = \Delta Y''$ とプリ発光時の発光光量 $\Delta Y'$ の和（ $\Delta Y = \Delta Y' + \Delta Y''$ ）が本発光指示時にストロボ発光部 11 に与える光量となる。

【0029】

本発光指示手段 115 は適正光量決定手段 114 からの遷移があった場合に適正光量決定手段 114 で得られた光量値 ΔY のストロボ発光を行なわせるための発光量制御信号をストロボ発光部 11 に送出し、本発光を行なわせる。

記録指示手段 116 は光量判定手段 113 から遷移があった場合、または本発

光時にDRAM14の画像バッファに記憶されている画像データの読み出し、データ圧縮およびフラッシュメモリ51への転送を指示するための指示信号を送出し、画像データの記録処理を行なわせる。

【0030】

図4は被写体の一例を示す説明図であり、図5は図4の被写体を例としたストロボ撮像による光量分布の例を示す説明図であり、(a)は画像の所定割合以上が適正光量範囲である例、(b)は画像の一部は適正光量範囲であるが、大部分が適正光量以下である例、(c)は全体が適正光量以下である例、(d)は(c)の例に適正光量決定手段114により算出された光量増分 $\Delta Y''$ を補って画像全体を適正光量範囲に納めた例を示す。

【0031】

〔動作例〕

図6は、ストロボ撮像モード下のデジタルカメラの動作例を示すフローチャートである。以下、図1～図6を基に説明する。

図6で、RECモードが選択されると撮像モードに遷移してスルー画像がファインダ40に表示される。ここで、撮像者が周辺の明るさからストロボ撮影が必要と判断するか、或いはファインダ40を見て画面の明るさからストロボ撮影を所望してストロボ設定ボタン36を押すと、ストロボ撮像手段110が起動され、ストロボ表示ランプ35が点灯されS1に移行する。ストロボ表示ランプ35はストロボ充電状態では赤、ストロボ発光可能状態では青色に点灯する。ストロボ設定ボタン36を再度押すとストロボ表示ランプ35が消灯し、ストロボ撮像／記録手段110による処理が中断されて通常撮像モードに戻る(S0)。

【0032】

次に、制御部20は操作部30からの状態信号を調べ、ストロボが発光可能状態になった以降の任意のタイミングでユーザーがシャッターボタン37を押すと(S1)、プリ発光用の光量制御信号をストロボ発光部11に送ってプリ発光を行なわせ、周辺光量を補う(S2)。

制御部20はプリ発光時に取り込まれた画像データの被写体光量を検出して(S3)、光量検出値と適正光量の下限值 ϕ_{min} を比較し、最大検出光量が下限

ϕ_{min} 以上の場合には S5 に遷移し、検出値が下限 ϕ_{min} 未満の場合には S6 に移行する (S4)。

上記 S6 で検出光量が適正光量下限 ϕ_{min} 以上の場合には、画像の所定割合以上の領域の光量が適正光量範囲内であるか否かを判定し、所定割合未満の場合には S6 に遷移し、所定割合以上の場合には S8 に遷移する (S5)。

上記ステップ S4 で検出光量が適正光量下限 ϕ_{min} 未満の場合、或いは上記ステップ S5 で被写体画像のうち一部だけが適正光量範囲内の場合には、検出光量が適正光量になるようなストロボ発光量を決定し (S6)、決定された光量値で発光を行なわせるための本発光用の光量制御信号をストロボ発光部 11 に送って本発光を行なわせ、周辺光量を補う (S7)。

制御部 20 は、ステップ S2 のプリ発光時、或いはステップ S7 の本発光時に撮影され信号処理され DRAM 14 の画像バッファに記憶されているストロボ撮像済み画像データを読み出してデータ圧縮処理を施させて、フラッシュメモリ 51 に書込むよう制御する (S8)。

【0033】

<実施例 1-2>

本実施例は、図 3 のストロボ撮像手段 110 で、シャッターボタン 37 が押されると本発光量より多いプリ発光量でストロボ発光させるための発光量制御信号をストロボ発光部 11 に送出するようにプリ発光指示手段 112 を構成した例である。

また、図 7 は図 4 の被写体を例としたストロボ撮像による光量分布の例を示す説明図であり、(a) は画像の所定割合以上が適正光量範囲である例、(b) は画像の一部は適正光量範囲であるが、大部分が適正光量を超える例、(c) は全体が適正光量を超える例、(d) は (c) の例で適正光量決定手段 114 から光量増分 $\Delta Y''$ を差引いて画像全体を適正光量範囲に納めた例である。

【0034】

本実施例では図 3 のストロボ撮影手段 110 で、光量判定手段 113 はプリ発光時に取り込まれた被写体画像の光量検出値が適正範囲 (適正光量下限 ϕ_{min} ~ 上限 ϕ_{max} の範囲内 (図 7 (a))) にあるか否かを判定し、全てが上限 ϕ_{m}

αx を超える場合（図7（c））か、または画像の所定割合以上の光量が適正範囲にない場合（図7（b））には適正光量決定手段114に遷移する。また、画像の所定割合以上の光量が適正範囲（下限 ϕ_{min} ～ 上限 ϕ_{max} ）にある場合には画像記録指示手段116に遷移する。

【0035】

適正光量決定手段114は、光量判定手段113によりプリ発光時の被写体光量が上限 ϕ_{max} を超える場合（図7（c））または画像の所定割合以上の光量が適正範囲にない場合に、被写体画像の所定割合以上の光量が適正光量の範囲になる光量値を決定して、本発光指示手段115に遷移する。

決定方法の例として、いま、画像1枚分の幅をWとするとき図5（a）のように幅 $w_1 \sim w_2$ の範囲内で光量 y が適正值内にある場合の総光量 Y は、

$$Y = \int_{w_1}^{w_2} y$$

であるから、図7（b）や（c）のように光量が適正值を超える場合には、得られた光量のうちの最大値を Y_1 とする場合に、 $\phi_{min} < Y < \phi_{max}$ となるように w_1 , w_2 を決定し、そのときの最大値 Y_1 の増分（＝減少分＝マイナス増分）、すなわち $Y_1 - Y = \Delta Y''$ とプリ発光時の発光光量 $\Delta Y'$ の差（ $\Delta Y = \Delta Y' - \Delta Y''$ ）が本発光指示時にストロボ発光部11に与える光量となる。

また、動作フローチャートは、ステップS4～S6を次のように変更すればよい。

すなわち、図6のステップS4で、光量検出値と適正光量の上限値 ϕ_{max} を比較し、最大検出光量が上限 ϕ_{max} 以下の場合にはS5に遷移し、検出値が上限 ϕ_{max} を超える場合にはS6に移行する（S4）。

上記S6で検出光量が適正光量上限 ϕ_{max} 以下の場合には、画像の所定割合以上の領域が適正光量範囲内であるか否かを判定し、所定割合未満の場合にはS6に遷移し、所定割合以上の場合にはS8に遷移する（S5）。

上記ステップS4で検出光量が適正光量上限 ϕ_{max} 以下の場合、或いは上記ステップS5で被写体画像のうち一部だけが適正光量範囲内の場合には、検出光量が適正光量になるような光量を決定する（S6）。

上記実施例1-1および実施例1-2ではプリ発光撮像による被写体光量が適

正光量範囲の場合にプリ発光で得た画像を記録するので、本発光を行なう必要がなくなり、バッテリーの延命を実現できる。

【0036】

<実施例 2-1>

本実施例は中心被写体までの距離を取得してプリ発光の光量を決定してプリ発光を行なわせ、プリ発光による光量が適正光量の場合には撮像された画像データを記録する例のうち、中心被写体が一番撮影されやすい距離を予め定めておき、その距離に合わせてプリ発光を行なわせる例である。

【0037】

[ストロボ撮像手段]

ストロボ撮像手段 110' は、ユーザーがストロボ設定ボタン 36 を押した場合に起動され、ストロボ撮像処理および記録保存処理を実行する。

図 8 はストロボ撮像手段 110' の構成例を示すブロック図であり、ストロボ撮像手段 110' は、距離取得手段 111, プリ発光指示手段 112, 光量判定手段 113, 適正光量決定手段 114, 本発光指示手段 115 および記録指示手段 116 を含んでいる。なお、プリ発光指示手段 112, 光量判定手段 113, 適正光量決定手段 114, 本発光指示手段 115 および記録指示手段 116 の構成および機能は実施例 1-1 (図 3) または実施例 1-2 の構成および機能と同様である。

距離取得手段 111 は、中心被写体が一番撮影されやすい距離として予め定められている距離 R を取得して、距離 R で最適な光量をプリ発光量として決定する。

【0038】

[動作例]

図 9 は、設定されている被写体までの距離を基にプリ発光を行なう構成の下でのデジタルカメラの動作例を示すフローチャートである。なお、ステップ T2 以下の動作は図 6 のステップ S1 以下の動作と同様である。

図 9 で、REC モードが選択されると撮像モードに遷移してスルー画像がファインダ 40 に表示される。ここで、撮像者が周辺の明るさからストロボ撮影が必

要と判断するか、或いはファインダ40を見て画面の明るさからストロボ撮影を所望してストロボ設定ボタン36を押すと、ストロボ撮像手段110'が起動され、ストロボ表示ランプ35が点灯されT1に移行する。ストロボ表示ランプ35はストロボ充電状態では赤、ストロボ発光可能状態では青色に点灯する。ストロボ設定ボタン36を再度押すとストロボ表示ランプ35が消灯し、ストロボ撮像／記録手段110'による処理が中断されて通常撮像モードに戻る(T0)。

【0039】

次に、制御部20は中心被写体が一番撮影されやすい距離(被写体距離)として予め定められている距離Rを取得して、距離Rで最適な光量をプリ発光量として決定する(T1)。

制御部20は操作部30からの状態信号を調べ、ストロボが発光可能状態になった以降の任意のタイミングでユーザーがシャッターボタン37を押すと(T2)、距離Rで適正な光量をプリ発光用の光量として決定して、光量制御信号をストロボ発光部11に送ってプリ発光を行なわせ、周辺光量を補う(T3)。以下、ステップT4～T9は図6のステップS3～S8と同様である。

上記実施例2-1では撮像距離を最頻距離と仮定してプリ発光用の光量を決定し、被写体光量が適正光量範囲の場合にプリ発光で得た画像を記録するので、実施例1-1、1-2の場合より、本発光を行なわなくてすむケースが多くなるので、バッテリー寿命をより長くできる。

【0040】

＜実施例2-2＞

本実施例は中心被写体までの距離を取得してプリ発光の光量を決定してプリ発光を行なわせ、プリ発光による光量が適正光量の場合には撮像された画像データを記録する例のうち、オートフォーカス動作により得られた距離に合わせてプリ発光を行なわせる例である。

本実施例では図1の回路構成でデジタルカメラ100がオートフォーカス機構を備えている場合の例であり、ストロボ撮影手段110'で、距離取得手段111は、オートフォーカス動作により得られた距離Rを取得して、距離Rで最適な光量をプリ発光量として決定する。なお、距離Rを手動操作で変更設定できる、

すなわちプリ発光量を所望の発光量に変更設定できるようにしてもよい。以下、プリ発光指示手段 112、光量判定手段 113、適正光量決定手段 114、本発光指示手段 115 および記録指示手段 116 の構成および機能は実施例 1-1 (図 3) または実施例 1-2 の構成および機能と同様である。

【0041】

＜実施例 2-2＞

本実施例は中心被写体までの距離を取得してプリ発光の光量を決定してプリ発光を行なわせ、プリ発光による光量が適正光量の場合には撮像された画像データを記録する例のうち、オートフォーカス動作により得られた距離に合わせてプリ発光を行なわせる例である。

本実施例では図 1 の回路構成でデジタルカメラ 100 がオートフォーカス機構を備えている場合の例であり、ストロボ撮影手段 110' で、距離取得手段 111 は、オートフォーカス動作により得られた距離 R を取得して、距離 R で最適な光量をプリ発光量として決定する。なお、距離 R を手動操作で変更設定できる、すなわちプリ発光量を所望の発光量に変更設定できるようにしてもよい。以下、プリ発光指示手段 112、光量判定手段 113、適正光量決定手段 114、本発光指示手段 115 および記録指示手段 116 の構成および機能は実施例 1-1 (図 3) または実施例 1-2 の構成および機能と同様である。

【0042】

〔動作例〕

図 10 は、オートフォーカス動作で得た被写体までの距離を基にプリ発光を行なう構成の下でのデジタルカメラの動作例を示すフローチャートである。なお、ステップ U3 以下の動作は図 6 のステップ S1 以下の動作と同様である。

図 10 で、REC モードが選択されると撮像モードに遷移してスルー画像がファインダ 40 に表示される。ここで、撮像者が周辺の明るさからストロボ撮影が必要と判断するか、或いはファインダ 40 を見て画面の明るさからストロボ撮影を所望してストロボ設定ボタン 36 を押すと、ストロボ撮像手段 110' が起動され、ストロボ表示ランプ 35 が点灯され U1 に移行する。ストロボ表示ランプ 35 はストロボ充電状態では赤、ストロボ発光可能状態では青色に点灯する。ス

トロボ設定ボタン 36 を再度押すとストロボ表示ランプ 35 が消灯し、ストロボ撮像／記録手段 110' による処理が中断されて通常撮像モードに戻る (U0)

【0043】

制御部 20 は、この間に、オートフォーカス機構を動作させて合焦動作を行なわせ (U1)、オートフォーカス動作時に得られる注目被写体との距離 R を取得して、この距離 R で最適な光量をプリ発光量として決定する (U2)。

制御部 20 は操作部 30 からの状態信号を調べ、ストロボが発光可能状態になった以降の任意のタイミングでユーザーがシャッターボタン 37 を押すと (U3)、距離 R で適正な光量をプリ発光用の光量として決定して、光量制御信号をストロボ発光部 11 に送ってプリ発光を行なわせ、周辺光量を補う (U4)。以下、ステップ U5～U10 は図 6 のステップ S3～S8 と同様である。

【0044】

上記実施例 2-2 ではオートフォーカス動作により得られた注目被写体との距離を基にプリ発光用の光量を決定し、被写体光量が適正光量範囲の場合にプリ発光で得た画像を記録するので、実施例 2-1 の場合よりさらに本発光を行なわなくてすむケースが多くなるので、バッテリー寿命をより長くできる。

なお、上記各実施例においては、被写体画像を常時取り込み、電子ファインダに表示する構成のデジタルカメラに本発明を適用した場合について説明したが、例えば光学ファインダを用いる構成のデジタルカメラにも本発明を適用することができる。但し、この場合は、図 6 のステップ S2, S7 でストロボ発光と同時に被写体画像の取り込み処理 (撮像処理) を実行する必要がある。

以上本発明の一適用例としてデジタルカメラの場合について幾つかの実施例を説明したが、本発明はデジタルカメラに限定されるものではなく、撮像部を備えた種々の装置に実施が可能であることはいうまでもない。

【0045】

【発明の効果】

以上説明したように、第 1 及び第 5 の発明によればプリ発光による被写体光量が適正光量範囲の場合にプリ発光で得た画像を記録するので、発光回数を減少さ

せることができ、バッテリーの延命を実現できる。

【0046】

また、第2の発明によれば中心被写体との撮像距離を最頻距離と仮定してプリ発光用の光量を決定し、被写体光量が適正光量範囲の場合にプリ発光で得た画像を記録するので、発光回数をより減少させることができ、バッテリー寿命をより長くできる。

【0047】

また、第3の発明によればオートフォーカス動作により得られた注目被写体との距離を基にプリ発光用の光量を決定し、被写体光量が適正光量範囲の場合にプリ発光で得た画像を記録するので、上記第1および第2の発明より発光回数を減少させることができ、バッテリー寿命をより長くできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明を適用した撮像装置の一実施例としてのデジタルカメラの回路構成例を示すブロック図である。

【図2】

図1のデジタルカメラの一実施例の外観（前面）図である。

【図3】

ストロボ撮像手段の構成例を示すブロック図である。

【図4】

被写体の一例を示す図である。

【図5】

ストロボ撮像による光量分布の例を示す説明図である。

【図6】

ストロボ撮像モード下のデジタルカメラの動作例を示すフローチャートである。

【図7】

ストロボ撮像による光量分布の例を示す説明図である。

【図8】

ストロボ撮像手段の構成例を示すブロック図である。

【図 9】

距離を基にプリ発光を行なう構成の下でのデジタルカメラの動作例を示すフローチャートである。

【図 10】

オートフォーカス動作で得た距離を基にプリ発光を行なう構成の下でのデジタルカメラの動作例を示すフローチャートである。

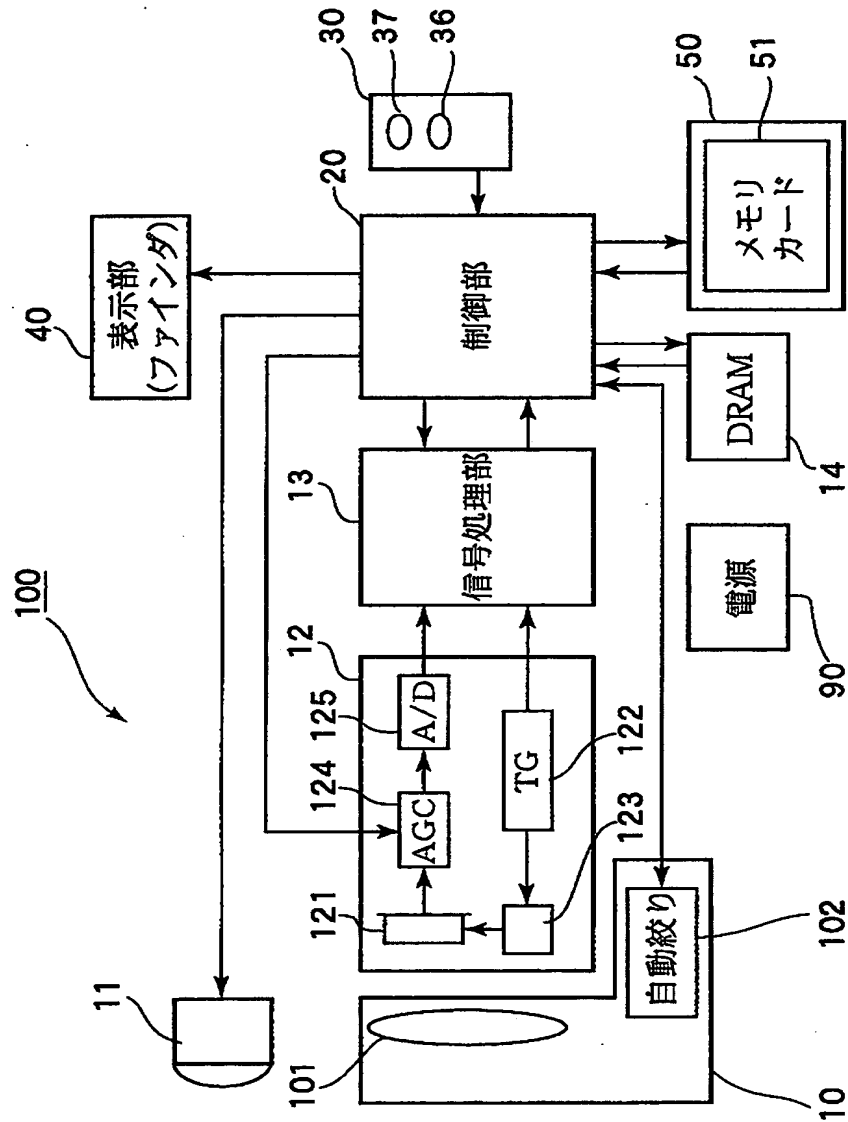
【符号の説明】

- 11 ストロボ発光部
- 100 デジタルカメラ（撮像装置）
- 111 距離取得手段（プリ光量決定手段）
- 112 プリ発光指示手段（プリ発光制御手段）
- 113 光量判定手段
- 114 適正光量決定手段（本発光制御手段）
- 115 本発光指示手段（本発光制御手段）
- 116 記録指示手段（画像記録制御手段）

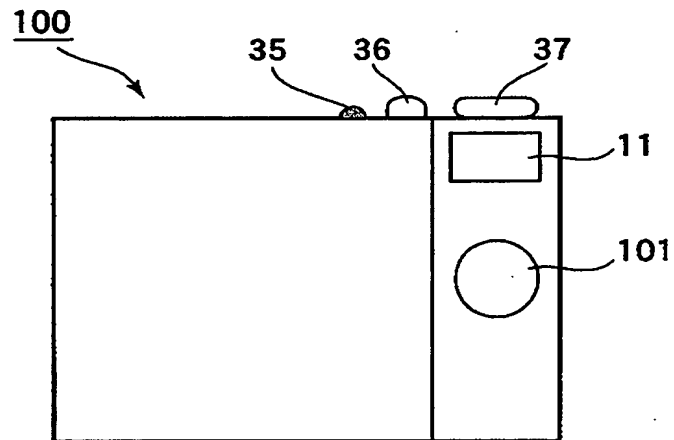
【書類名】

図面

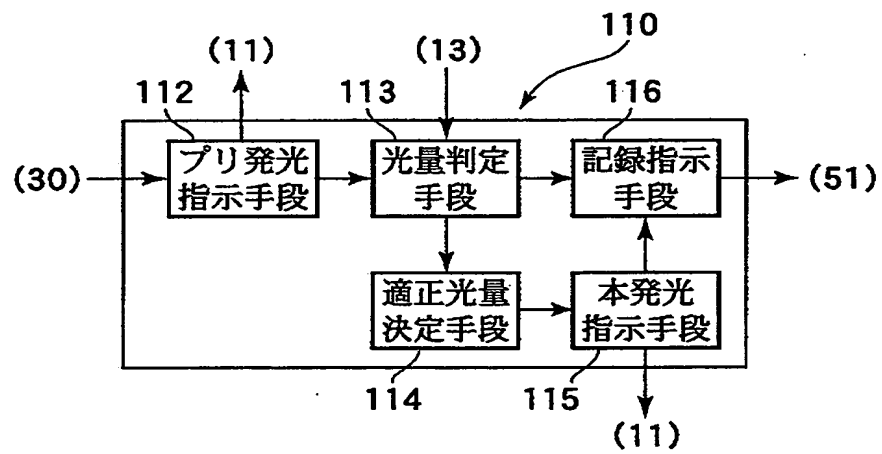
【図 1】



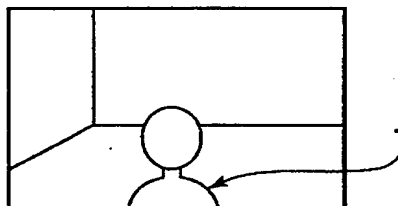
【図 2】



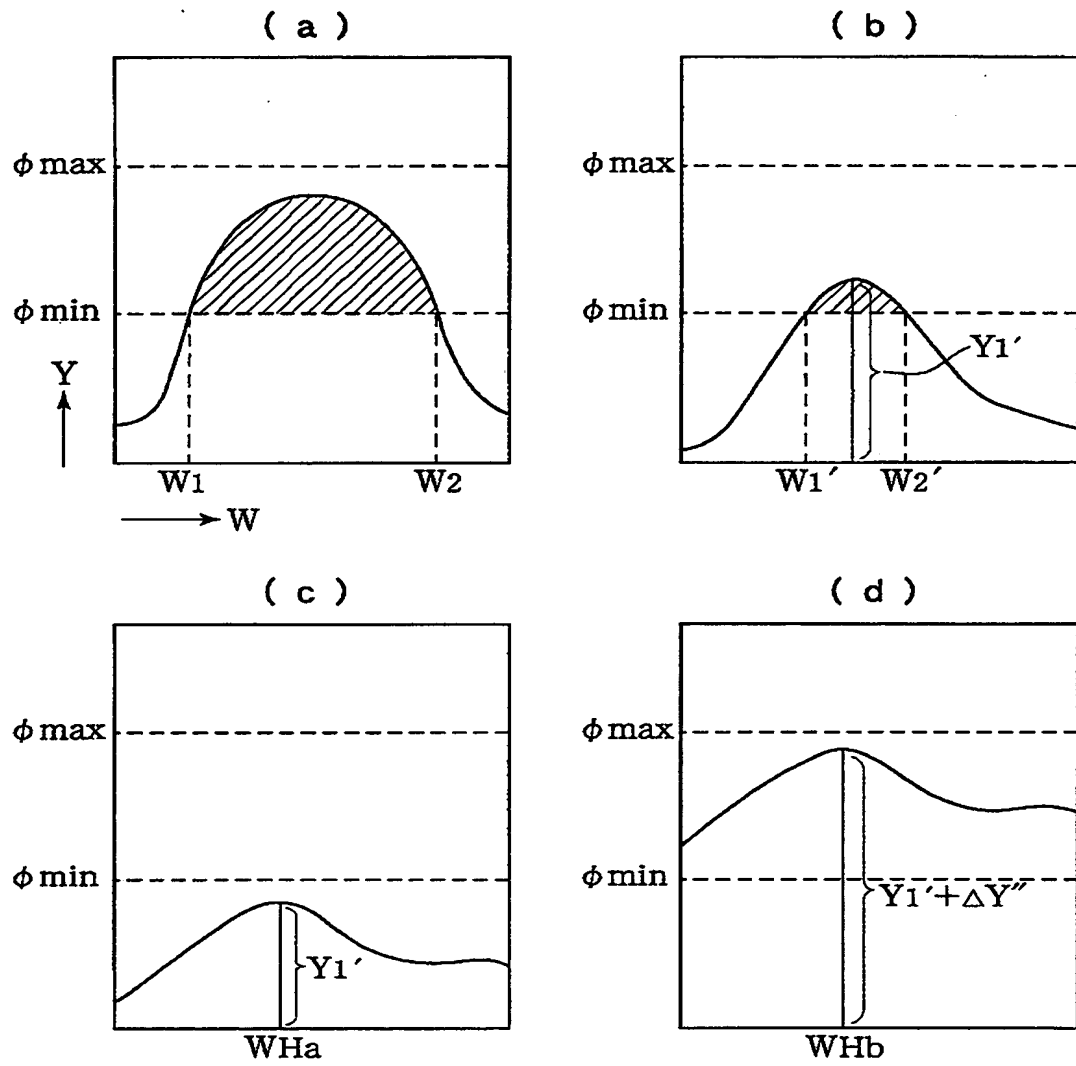
【図 3】



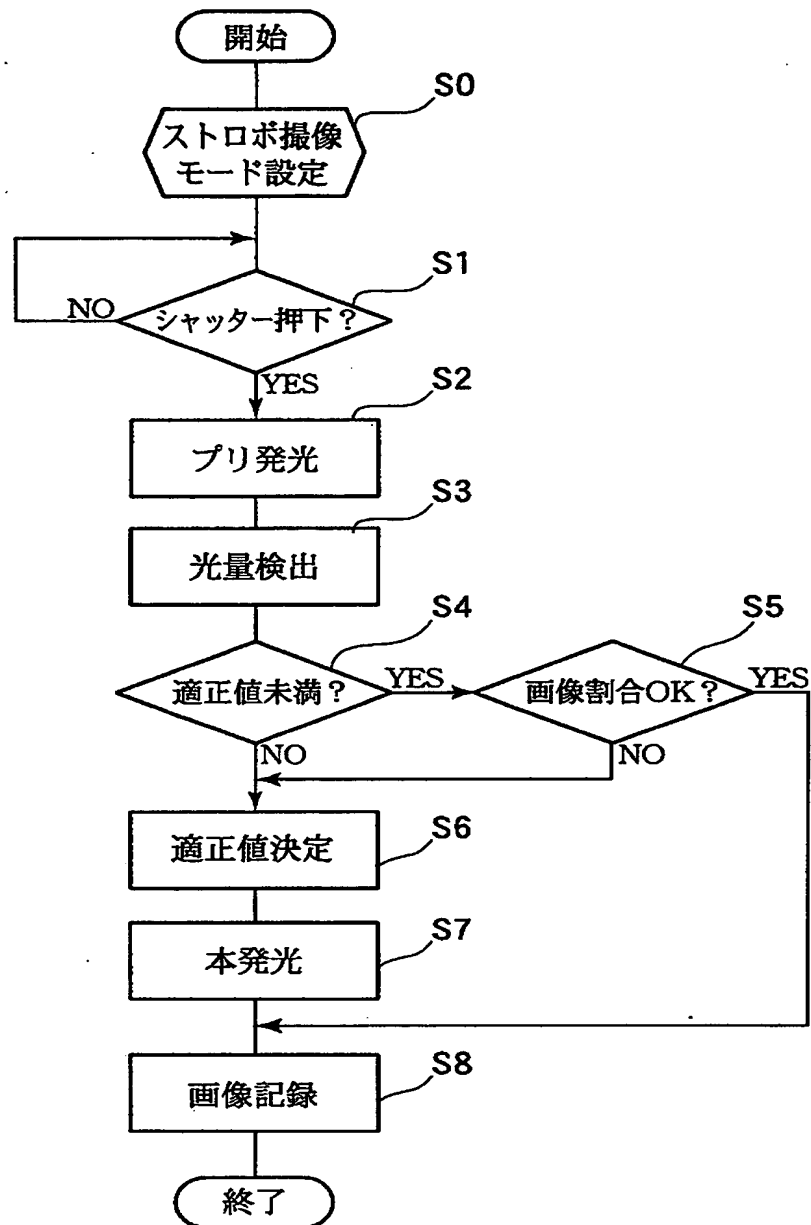
【図 4】



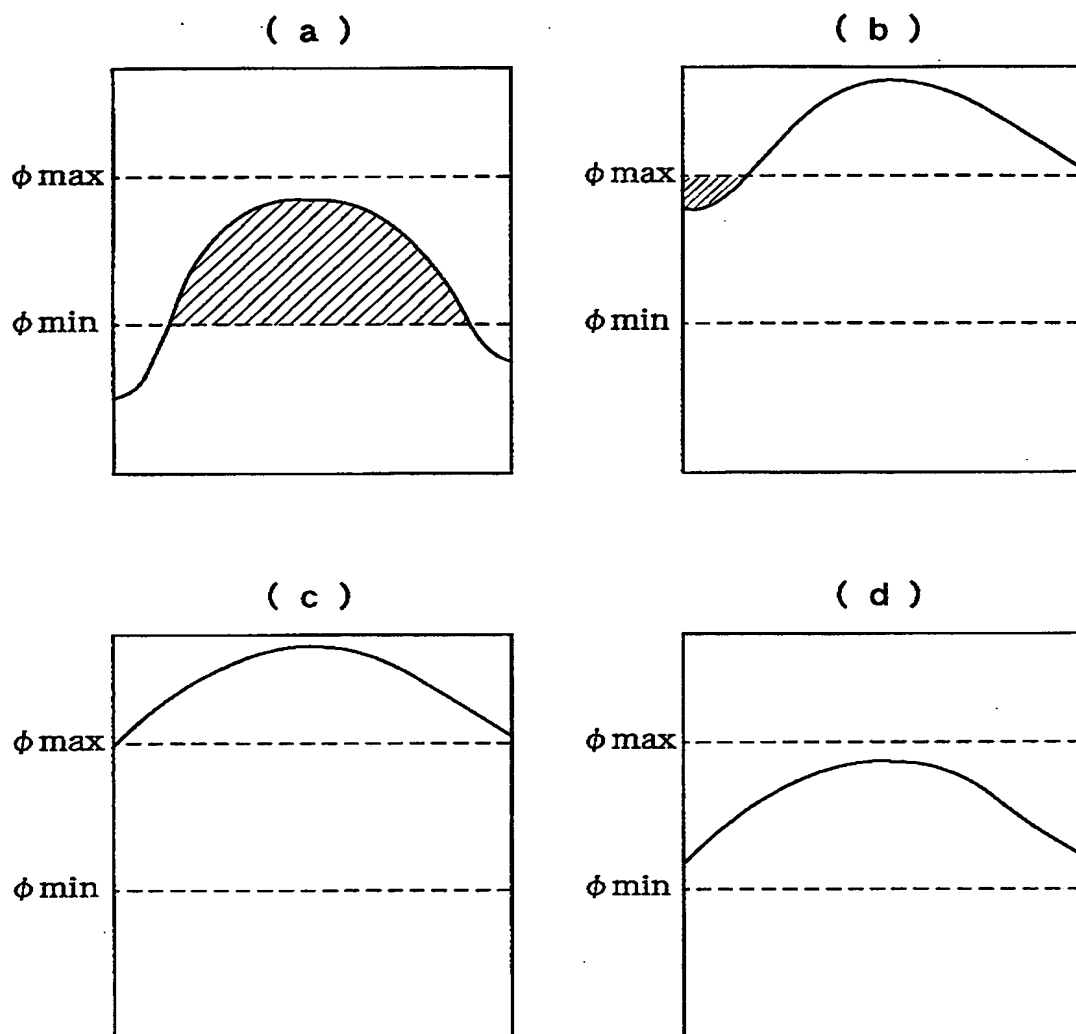
【图 5】



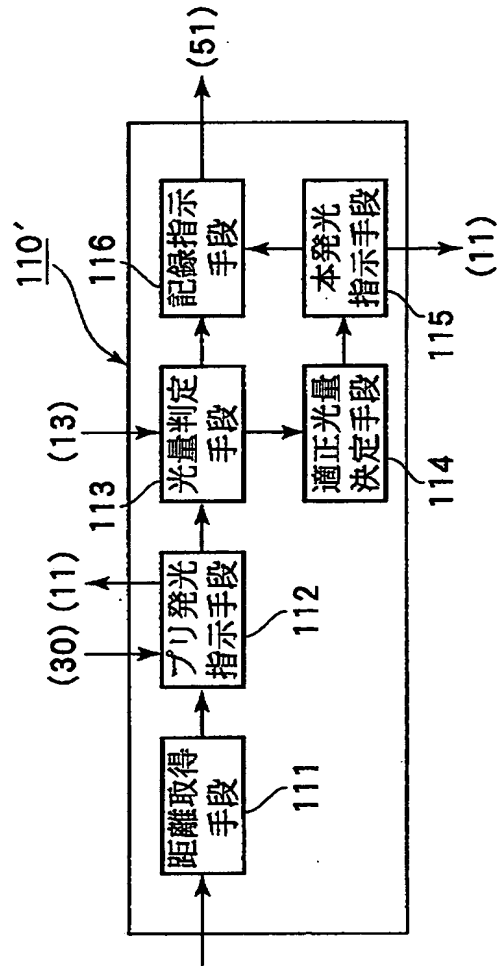
【図 6】



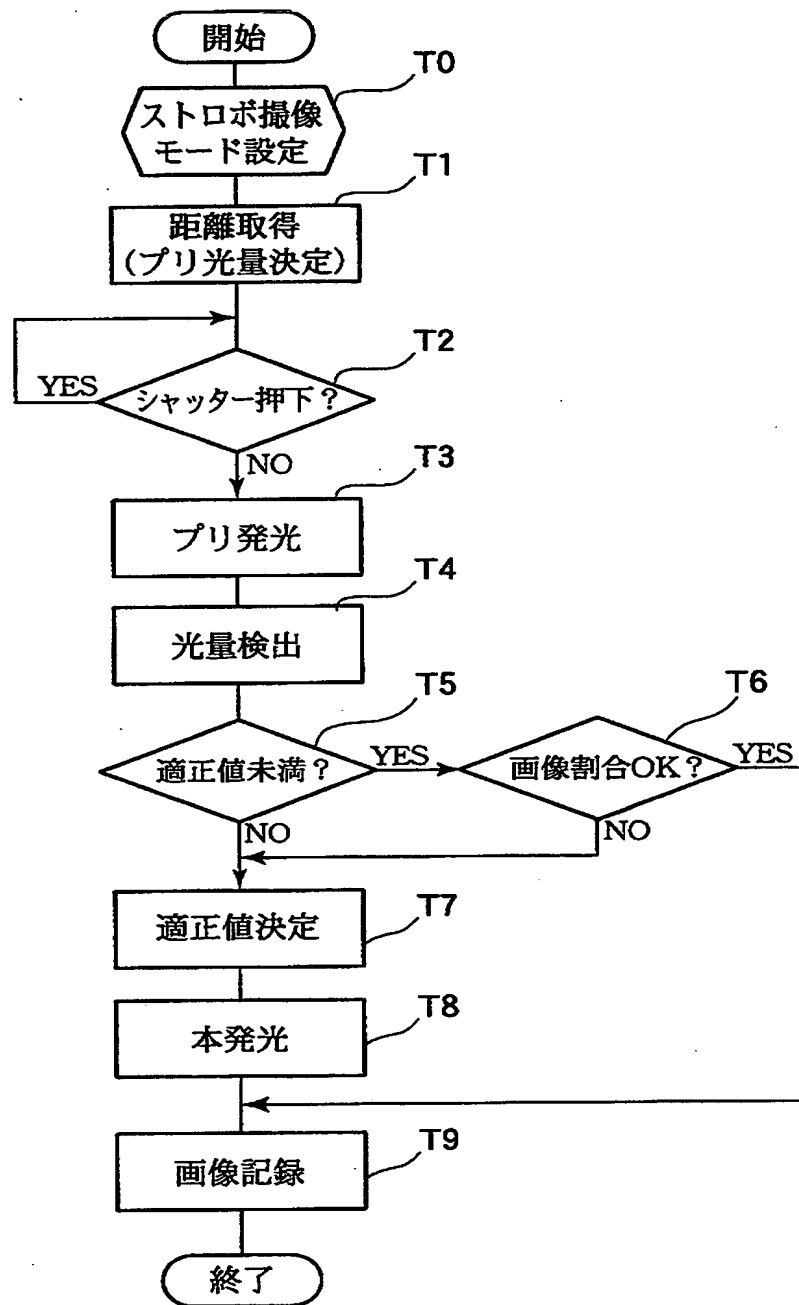
【图 7】



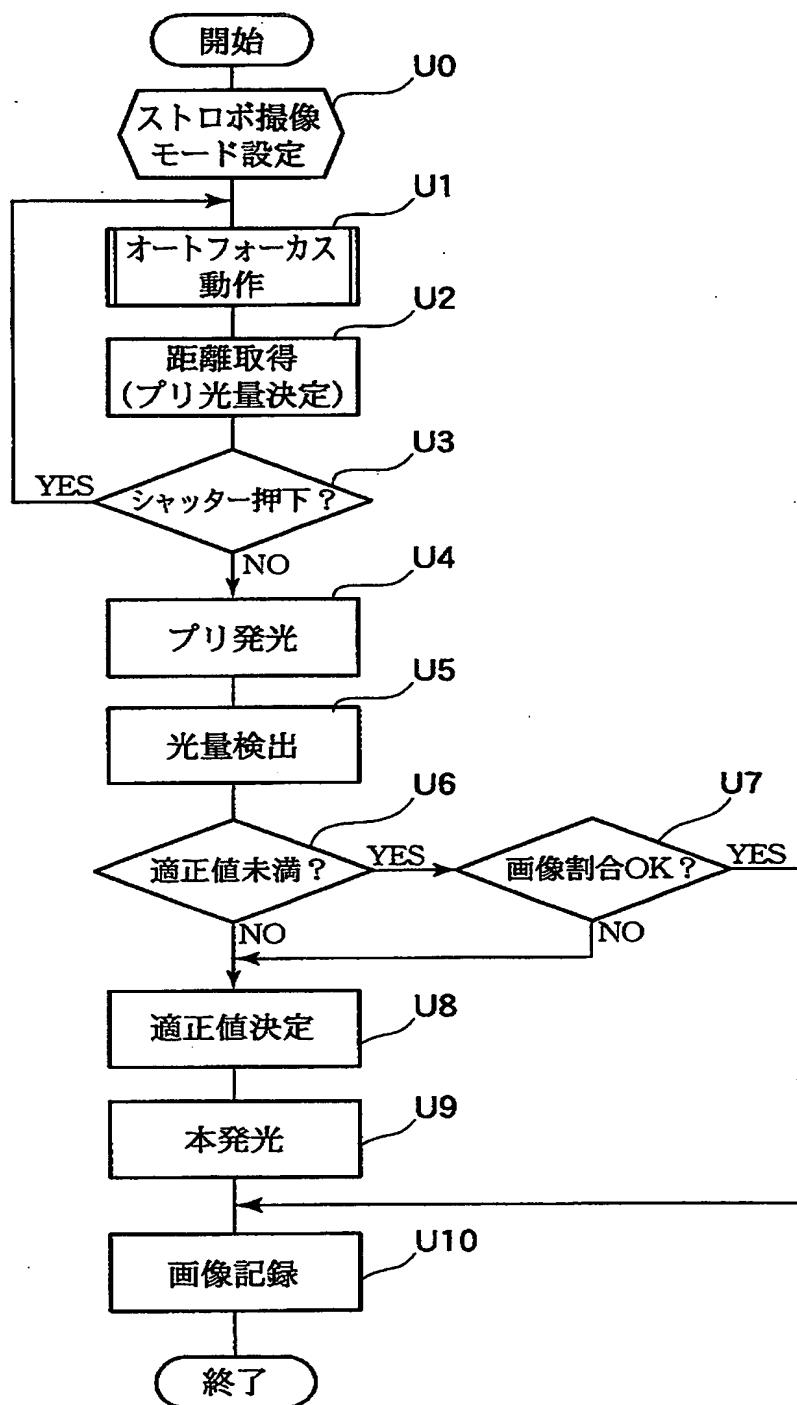
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 プリ発光で得た画像の光量が適正である場合にそれを撮影画像データとすることで発光回数を減らし、その分バッテリー寿命延長を図り得る撮像装置の提供。

【解決手段】 ストロボ撮像モード設定後（S0）、シャッターボタン37が押されると（S1）、プリ発光量を決定して発光量制御パルスを送出してプリ発光させる（S2）。そして、ストロボ発光時の被写体光量を検出し（S3）、撮像光量として適正か否かを判定する（S4）。

そして、プリ発光により撮像された被写体画像の光量が適正な範囲内にある場合には、取込まれた被写体画像を撮影画像として記録する（S8）。

一方、光量が適正でない場合には取込まれた被写体光量を元に撮像に必要な光量を決定して（S6）、ストロボに本発光を行なわせて画像を取込み（S7）、撮影画像として記録する（S8）。

【選択図】 図6

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】
【識別番号】 000001443
【住所又は居所】 東京都渋谷区本町1丁目6番2号
【氏名又は名称】 カシオ計算機株式会社
【代理人】 申請人
【識別番号】 100072383
【住所又は居所】 東京都港区芝3丁目2番14号 芝三丁目ビル
【氏名又は名称】 永田 武三郎

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001443]

1. 変更年月日	1998年 1月 9日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都渋谷区本町1丁目6番2号
氏 名	カシオ計算機株式会社